

# 修郎先生の事件簿2

小池雄一氏

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎(さしゅう・しゅうろう)は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

大谷翔平 明けましておめでとうございます。今年もよろしく願っています。

佐生修郎 あれ? 「大変だ、大変だ」での入場ではなかったね。

大谷 それはそうさ。たとえ四季の無い場所に居たとしても「季節感と教養」を大切にするのが日本人だからね。無理矢理にでも正月の雰囲気を出さなくっちゃ。

佐生 おお、外国で活躍している日本人、翔平君らしいね。今年もよろしく。

大谷 それはそうと、今年、ビザ関連では何を心掛けていったら良いのかな? 佐生 昨年、イミグレ局の新システム(Monline)が稼働開始。それによりビザ種類が目的・活動内容毎に細分化された。

大谷 主要なものだけでも20種類を超えている。

大谷 出張向けにどのビザ種類を申請するのか、目的や活動内容に沿うように慎重にビザ選択しなくてはならないね。

佐生 出張向けに「ビザ選択ガイドライン」を作成している企業は多い。

それを改めて見直しておくべきだろうね。

大谷 そういえば、在インドネシア日本大使館のホームページ内の「インドネシアへの入国・滞在」の所に「査証分類表(ビザ種類一覧)」の原文と仮訳が載っていたよ。

佐生 それは素晴らしい。それを参照すれば、目的・活動内容について規定上の記載詳細が日本語で分かるね。

大谷 ところで、新システムで管理されているITASは、その延長の際に地域イミグレ局へ本人が出頭する必要が無くなったって聞いたよ。

佐生 さよう。新システムによりITAS延長プロセスは簡易化が進み、パスポートオリジナルの提出でさえ不要になった。

大谷 それなら日本に居たままでもITAS延長が可能になったのかなあ。

佐生 んん、残念ながらそうはいかない。延長申請時に本人がインドネシアに居る事は必要だ。滞在情報システム内でデータ管理されているから逃げられない。

大谷 新システムが上手く稼働しているみたいだね。それでプロセスの簡易化が進んだら、イミグレ職員の仕事は大きく効率化していくね。

佐生 さよう。だから当局内でプチリストラが噂されているらしい。でも多くは配置転換だろうね。

大谷 ええ、もしかして監査チームに配置転換されるのかな? それで監査機能が強化されたら嫌だな。

佐生 察しが良いね。その可能性は大いにある。今まではITAS延長時に出頭させることで外国人の実在チェックと最新情報への更新を促していた。それが無くなったのだから、別の方法で外国人の様子を管理監督していかねければならぬ。

大谷 ITAS延長時に出張させなくなった代わりに、その分を立入検査や呼出監査で補うってことか。

佐生 さよう。昨年の後半、その大義名分を得て派手に立入検査や呼出監査を行っていた地域イミグレ局

もあつたようだ。大谷 それぞれ。昨年未、取引先の社長さんが現場視察中にイミグレ職員と出くわして、パスポートを取り上げられたって聞いたよ。

大谷 あちや。5人中には近日出国予定がある人もいたのではないかな。インパクトの大きい出来事だよな。

佐生 そのケースでは社長さんが頑張った。イミグレ当局へ自らが出頭して事情徴収を受け、慎重に説明をして、最後には収束させたよ。

大谷 噂では、イミグレ局での事情徴収って最低4時間かかるって。

佐生 噂ではない。そのケースでは午後1時半に出頭して終わったのは夜11時頃だった。大谷 凄いな、その社長さん。

佐生 通訳を介しての対応だった。審査官の質問に一つ一つ丁寧に言葉を選んで答えていたよ。

大谷 でも、自社のインドネシア人ビザ担当者や法務担当者に委任して代行出頭してもらっても良いのだよな。

佐生 さよう。しかし今回は、イミグレ局側が強硬に社長の出頭を求めた。それを受けて立ったようだ。自分達には不正や不備も全く無い状態だった確信があったのだろう。加えて日本領事館の担当官も夜遅くまで連絡を繋いでサポートしてくれていた。心強いかぎりだ。

大谷 オールジャパんでの対応だったのだね。

佐生 とはいえ、外交の問題があるから領事館も相手の立場を尊重しながらの対応になる。イミグレ総局担当官への事実確認や問合せ、拘留時の日本人面会等が主になる。その点は在留邦人としても理解していくことが大切だ。

大谷 それでも地域イミグレの審査官に対してはかなりのプレッシャーになるね。

佐生 イミグレ監査トランプルについては、初動、現状把握、規定とのギャップ分析、出頭や事情徴収への対応、着地点の検討、罰金の場合には支払い方法をどうするか等とフェーズ毎に対応をシミュレーションしておく方が良いだろう。

大谷 特に「初動」については日本人含む外国人みんながパスポートを押収されない方法論を考えておくべきだろうね。

佐生 専門家のアドバイスをもらったり、セミナーに参加していくと良いよ。大谷 今年は管理部門の担当役員は大変な一年になりそうだなあ。相手に敬意を以って接し尊重しながら「闘う」。そんな闘う年になりそうな予感がする。

佐生 困難な状況でも最善を尽くすのが日本人の良いところ。「負けない、負けるかもしれない、負けない」。でも負けない。「石川佳純の言葉に含蓄があるねえ。」

こいけ・ゆういち FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタツフへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。58歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

「修郎先生の事件簿2」は、原則、毎月第1水曜日に掲載します。

## 佐生修郎、心得えの条

- 一 出張者向けの「ビザ選択ガイドライン」を改めて見直しておくこと。日本大使館HP内の「査証分類表」が役に立つので参照すること。
- 二 今年にはイミグレ当局の立入検査や呼出監査が増える可能性を感じる。それへの対応についてシミュレーションしておくこと。特に「初動」でパスポートを取られないように。

# 2025年、どうするイミグレ対応?!